

OSGS4期生 活動進捗報告

寺田 陽香

【OSGS プログラムの概要】

Ohio-Saitama Global Speakers Program(以下「OSGS プログラム」)は、アメリカ合衆国オハイオ州と埼玉県の姉妹提携30周年を記念し開設された参加型プログラムである。これは単なる英語力の向上ではなく、グローバル社会を生き抜くために重要な「英語で発信する力」を養うことを主な目的としている。

参加者の活動内容は、主に以下の2点である。

1. フィンドレー大学モット教授による講義の受講
2. 埼玉親善大使としての埼玉県PR活動

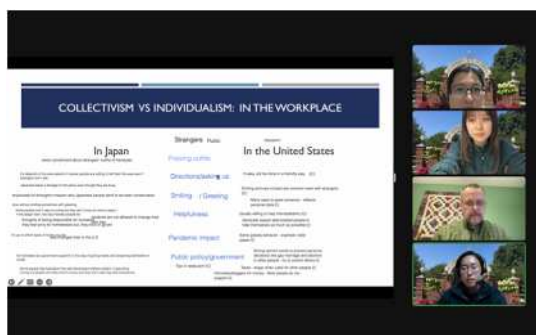
2022年度後期は募集人数よりも少ない3名の参加となっており、一人一人が各活動に深く関わるため、例年よりも密度の濃い講義の受講や埼玉県のPR活動が見込まれる。

【フィンドレー大学講義の受講報告】

本プログラムのテーマは“All for One and One for All”であり、主に日米双方で見られる集団主義と個人主義について扱っている。本講義は単なる座学ではなくディスカッションや意見交換も交えながら進むものであり、主に以下の流れでテーマの深掘りをしていく。

1. モット教授の講義
2. フィンドレー大学の学生とのペアディスカッション(以下写真:左)
3. ペアワークで出た意見の共有と内容に関するディスカッション(以下写真:右)

講義ではない議論の機会が多く設置されていることで、日米間だけでなく日本の参加者間での意見の差異も多く見られ、非常に興味深く学びになる講義であった。現段階(2月中旬)では議論を中心としたアイデアを広げている段階にいるため、今後はアカデミックな内容の活動が増える見込まれる。



【埼玉親善大使としての活動報告】

埼玉親善大使としての活動は、埼玉県魅力を世界に発信するだけでなく、埼玉県とオハイオ州を繋ぐ人材として、今後以下の3点に取り組んでいく予定である。

- SNSを用いた埼玉県のPR活動
- フィンドレー大学の学生に向けた埼玉県紹介
- フィンドレー大学学長の来日に際したOSGS・OSUS生の同窓会への参加

特にPR活動に関しては、参加者間で尋ねる場所や調べる事柄を共有しているため、今後はその実行に移ろうと考えている。

【感想及び今後の目標】

フィンドレー大学モット教授の講義を通し痛感したのは、自分の発言力の低さだ。初回の授業では他の2名の参加者と比べ積極的な発言ができず、教授から意見を求められてしまう場面が度々見られた。しかし、本プログラムの目的である「英語で発信する力」を養うためには、言語に関わらない「発言力」が必要不可欠である。また、議論においては英語の運用力よりもポジティブな姿勢が重要であることを学んだ。そこで、第二回講義からは積極的な発言を心がけ、本プログラムの目的を常に意識することに努めた。最終的なシンポジウムや成果発表会において聴衆の質疑応答に円滑に答えるためにも、この意識をより強めていきたい。

埼玉親善大使としての活動に関しては、今後参加者のお二人と積極的にお会いし、行動につなげていこうと考える。第3期生の成果発表会ではアメリカの学生が藍染めに関心を持っている場面が多く見られたため、4期の成果発表会もそのような印象的な会にしたい。